

地域住民の居場所における「薬育」動画の効果検証 —薬学生による「薬育」を通じた地域連携—

原田 美那 ●帝京平成大学 薬学部 助手(博士課程4年)



スターバックスコーヒーで「薬育」動画を放映している様子

1. 背景と目的

背景：少子高齢化が進む日本において、薬剤師は疾病予防や啓発活動などの健康サポートを積極的に行うことが求められている。薬剤師を養成する薬学教育においても、保健知識の普及指導・啓発活動を実践することが目標となった。また近年は、若年層によるオーバードーズなど薬に関する問題が社会課題となっている。

本学では、2018年度から薬学部の学生有志により「薬育」の実施を開始した。「薬育」とは、薬学生が小中学校や高齢者施設等へ赴き、医薬品の適正使用や薬物乱用防止、フレイル予防など健康な身体をつくるための教育活動である。2021年度以降は部活動の一環として、地域連携部に所属する1~4年生の学生を中心に実施している。

本学薬学部には、態度教育を目的としたセミナー科目がある。2023年度、2年生を対象としたセミナー科目において、「薬育」を授業に取り入れ、学生が4~5名のグループで「薬育」のプログラムを作成した。成果発表会には、地域の看護師、介護支援専門員、民生委員、町会長、近隣のスターバツ

ックスコーヒー（以下、スタバ）の店長など地域住民の方を招き、講評をいただいた。

その後、近隣のスタバで、授業内で作成した「薬育」のプログラムを動画にしたものを地域住民に対して放映した。動画を視聴した地域住民からは、健康意識が向上した旨の感想を得ていた。これまで小中学生向けのおくすり教室の効果検証等の研究は見られるものの、地域住民に対して動画を作成したことによる効果を検証している研究は見られない。

目的：そこで地域住民の身近な居場所で「薬育」動画を放映することで、地域住民の健康意識にどのような影響があるのか検証する。

2. 取り組みの方法

地域住民や専門職、学生と意見交換をしながら「薬育」動画を作成し、地域住民が日常的に利用するスタバなど、地域住民の身近な居場所で放映する。動画を視聴した地域住民に、薬や健康意識などに関するアンケート調査を行い、統計解析をする。

3. 期待される成果

地域住民の健康意識が上昇することにより、将来的に健康寿命の延伸が期待され、「薬育」を通じた地域連携の新たなモデルをつくることができる。また、薬学生が健康サポートを将来行うための自信となり、将来、薬剤師として積極的に保健知識の普及指導・啓発活動を実践できるようになる。